

年金の効率性、所得分配そして厚生に及ぼす影響  
— 家計の異質性を考慮した年金給付制度固定モデル —

神戸市外国語大学 藤井隆雄

福山大学 入谷 純

給付と保険料負担が定額部分と所得比例部分から成る賦課方式の年金制度において、給付制度を変えず、保険料負担の定額部分の増加を保険料負担の所得比例部分の低下によって財源調整する政策を検討する。この政策が (A) 資本蓄積、(B) 資源配分、(C) 所得分配に与える効果について家計の異質性を含む二世代重複モデルを用いて考察する。

同質家計を前提とする通常の世代重複モデルでは、労働供給が非弾力的であるため、年金負担が所得比例部分でなされようと、定額負担でなされようと、効率上のロスは発生しない。一方、本稿では対照的に(A)利子率が低下し、資本蓄積が刺激されること、そして、(B)経済厚生が改善されることが明らかにされる。さらに、(C)生涯所得の不平等が縮小するための必要十分条件を提示する。